

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前		山田 広幸	所 属		理学部 物質地球科学科
					職 名 准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果
教育・ 学生 支援	0.40	<ul style="list-style-type: none"> <li>・担当する講義を、受講者の能力・学習態度を考慮しながら進める。</li> <li>・研究室に配属された3名の卒業研究の指導を実施する。</li> <li>・気象概況説明会「weather briefing」を週1回開催し、学生の気象に対する興味を高め、大気現象への理解を深める手助けをする。</li> <li>・研究室に所属する学生、院生の進路や就職についてサポートを行う。</li> </ul>		0.40	<ul style="list-style-type: none"> <li>・気象や地球流体力学に関する専門科目について、受講者の能力に応じて計算問題にかけける時間を多めにとり、数式に対する苦手意識を軽減するよう努めた。</li> <li>・卒業予定の学生について、台風・梅雨前線に関する研究の指導を行った。</li> <li>・Weather briefingを週1回のペースで開催し、学生の気象に対する理解を深め、プレゼンテーションの能力が向上するよう努めた。</li> <li>・今年度卒業予定の2名について、大学院進学と、就職について、精神面も含めたサポートを行った。</li> </ul>
研究	0.30	<ul style="list-style-type: none"> <li>・継続中の科研費研究を計画通りに進める。</li> <li>・名古屋大学との共同による気象レーダー観測を遂行する。</li> <li>・JAXAとの共同研究である衛星データ解析を行う。</li> <li>・沖縄電磁波技術センターの気象レーダーを用いた研究を進める。</li> </ul>		0.30	<ul style="list-style-type: none"> <li>・科研費で進めている気象レーダーを用いた台風の強度推定の手法が確立し、台風15号の石垣島接近時における急速な発達を捉えることに成功し、10月1日に気象庁と共同で報道発表を行った。</li> <li>・沖縄電磁波技術センターのレーダーを用いた梅雨前線の構造に関する研究を4年生の卒業研究として行った。</li> </ul>
社会 貢献	0.10	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本気象学会の国際誌JMSJの編集委員を継続する。</li> <li>・球陽高校における気象観測装置の運用に関するアドバイスを行う。</li> </ul>		0.10	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国際誌JMSJの編集委員を継続し、投稿論文5編の編集を担当した。</li> <li>・球陽高校に気象観測装置のデータ取得・表示プログラムを提供した。</li> <li>・気象学会沖縄支部「離島お天気教室」(与那国島)にて講師を務めた。</li> <li>・気象学会沖縄支部「子ども気象学士教室」にて台風の講義を行った。</li> </ul>
管理 運営	0.20	<ul style="list-style-type: none"> <li>・琉球大学理学部気象ステーションの維持管理を行う。</li> <li>・理学部屋上に設置した名古屋大学レーダーの維持管理を行う。</li> <li>・担当する委員の役割を果たす。</li> </ul>		0.20	<ul style="list-style-type: none"> <li>・気象ステーションについて、台風の暴風によるセンサ損傷による欠測を除き、1年にわたって連続したデータを取得した。</li> <li>・レーダーは台風通過による短時間の停電を除き連続運用を行うことができた。</li> <li>・教育委員、代議員の活動を通し、その役割を果たした。</li> </ul>
	0.00			0.00	
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。</li> <li>・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。</li> <li>・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。</li> </ul>		1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。</li> </ul>
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		伊藤耕介	所 属		理学部 物質地球科学科	職 名		助教
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生支援	0.30	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新規に担当する講義「地球科学におけるデータ解析」「台風物理学」の講義資料を学生の理解度に合わせて作成する。</li> <li>・初めての研究室配属学生の卒業に向けて、深い理解と技術のもとに学生自身が研究を進められるよう、適切な指導を行う。</li> </ul>			0.30	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新規に開講した科目である「地球科学におけるデータ解析」「台風物理学」に関する資料を作成し、講義を行った。</li> <li>・4年次の学生が卒業論文を執筆するために必要となる技術指導や論理的な文章構成について、直接の対話を通じて行った。</li> </ul>		
研究	0.40	<ul style="list-style-type: none"> <li>・台風予測初期値の最適化問題に関する研究を進め、論文を出版する。</li> <li>・昨年に得られた大気海洋結合モデルを用いた台風予測に関する研究に関し、国際学会での発表を行う。</li> </ul>			0.40	<ul style="list-style-type: none"> <li>・天気予報に用いられている最先端の計算初期値最適化手法を地震学に応用する共同研究がGJIから論文を出版した。</li> <li>・台風転向点が十年規模で南北振動することを発見し、IJCから論文を出版した</li> <li>・大気海洋結合モデルを用いた研究についてPAMSなどで招待講演を行った。</li> </ul>		
社会 貢献	0.20	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出版や講演会などの機会を通じて、台風に関連する自然災害に関する知識の普及に努める。</li> </ul>			0.20	<ul style="list-style-type: none"> <li>・NHKスペシャル「メガディザスターII～大避難」において、数値シミュレーションを行い、定量的な台風災害の被害想定に貢献した。</li> <li>・沖縄県立博物館の博物館文化講座「台風と自然災害」の講師を務めた。</li> <li>・琉球新報(2015/10/10)にて、台風に関する研究活動が紹介された。</li> </ul>		
管理 運営	0.10	<ul style="list-style-type: none"> <li>・理学部の選挙管理委員として公正な選挙管理に努める。</li> <li>・その他の委員会委員として、理学部や物質地球科学科の管理運営活動を補佐する。</li> </ul>			0.10	<ul style="list-style-type: none"> <li>・理学部意向調査管理委員として適切な選挙管理に努めた。</li> <li>・理学部公式HPリニューアルにかかる仕様策定委員会として、次期HPに求められるべき内容を他の委員と議論し、理学部全体の意見取りまとめを行った。</li> </ul>		
	0.00				0.00			
計	1.00				1.00			
<p>※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。</p>					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前		藤田和彦	所 属		理学部 物質地球科学科
			職 名		教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果
教育・ 学生支援	0.30	1. 担当科目(海洋微古生物学など)の講義内容の改善に努める。 2. 学生の視点に立ったコミュニケーションを常に心がけ、進路の相談に当たる。		0.20	1. 講義「地層学」では大学のバスを利用して野外巡検を企画し、実習形式で理解させる工夫をした。 2. 適宜進路相談に当たり、指導学生6名全員の進路が内定した。
研究	0.40	1. 中期計画達成戦略的研究推進経費に研究代表者として応募し、琉球弧の島嶼地球環境科学に関する学内共同研究チームをとりまとめる。2. 1のチームで大型科研費等を申請する。3. 海外の大学との国際共同研究を進展させる。		0.40	1. 中期計画達成プロジェクトとして「異分野融合による琉球弧の島嶼地球環境科学」が採択され、実施責任者として学内共同研究を推進した。2. 1のメンバー数名と科研費(挑戦的萌芽)を共同申請した。3. 香港大学・シドニー大学との国際共同研究を進め、香港大学の研究者とは学術論文を一編公表し、シドニー大学の研究者とは来年度の科研費に共同申請した。4. 国際学術雑誌に5編の論文(そのうち2編は筆頭著者)を公表した。
社会貢献	0.10	教員免許更新講習「琉球列島の成り立ち(野外地質巡検)」を準備・実施する。		0.10	「琉球列島の成り立ち(野外地質巡検)」を実施し、20名の小中高教員に地層を理解することの重要性を伝えた。
管理運営	0.20	最終年度となる理学部国際サンゴ礁研究教育ハブ形成プロジェクトの運営委員として、シンポジウム開催や成果のとりまとめに尽力する。		0.30	プロジェクトの最終成果となる英語版書籍「Nature in the Ryukyu Archipelago」の出版に編集委員長として尽力した。
	0.00			0.00	
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。</li> <li>・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。</li> <li>・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。</li> </ul>		1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前	中村衛		所 属	理学部 物質地球科学科	
職 名	教授				
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定	業務 ウェイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果	
教育・ 学生支援	0.20	質問・感想用紙を毎回配布して、学生の理解が不十分な点、講義の進め方等について積極的な意見を聴取し、次回以降の授業で生かす。ミニテストを適時実施して次回にその結果を各学生に返却し、学生がどの程度理解できたかを双方で把握できるようにする。	0.20	ミニテストで理解力を授業の最後に確かめた結果、簡単な計算でもすぐに出てこないことを学生が認識でき、その場で学生に計算方法を修得させることができた。また学生の質問・感想を次の授業の導入に用い、講義内容が互いに連続していることを理解してもらった。	
研究	0.30	琉球海溝および台湾での巨大地震津波発生可能性研究を推進するため、他大学との共同観測研究(津波堆積物、海底地殻変動観測)を進める。研究成果は国内外で学会発表および学術雑誌へ論文投稿する。	0.30	静岡大、名古屋大との海底地殻変動観測をそれぞれ八重山と沖縄本島で実施した。台湾中央大との津波堆積物調査を台湾東部で実施した。ゆっくり地震に関する研究をさらに進めた。また1月30日にワークショップ「科学史から見た沖縄：フランスの関与などをめぐる気象・地震・災害記録」を実施した。研究成果は国内発表5回、国際発表3回、国際誌(査読有)に投稿修正中1本、および国内誌(査読無)で印刷中1本である。	
社会貢献	0.30	マスコミを通じた研究広報活動、および一般向け講演活動を行い防災活動・地震知識の普及に努める。地震関係の委員会に参画し、研究成果を生かす。	0.30	沖縄の地震津波に関する一般向け講演を6月18日(沖縄社会福祉協会:約60人)と1月27日(防災・地震フォーラムin那覇:約100人)に実施した。また4月にはラジオ番組(RBCラジオ)に出演し地震についての解説をおこなった。沖縄県の津波想定に関する検討に参画し専門意見を述べた。1月には南海トラフ～南西諸島海溝の地震・津波に関する研究会および南西諸島域における低周波地震等の発生状況に関する検討委員会にそれぞれ参加した。	
管理運営	0.20	理学部電算化委員会委員として理学部計算機室の運営に務める。広報委員として地学系ホームページの充実および理学部体験ツアーの実施にあたる。全学学士教育プログラム委員会地学プログラム委員として活動を行う。	0.20	理学部電算化委員会委員として情報処理センター運営に関する委員活動に従事した。地学系ホームページの更新、理学部体験ツアーについてパンフレット作成および当日の作業を実施した。全学学士教育プログラム委員会地学プログラム委員として評価基準表に基づく成績評価の試行を進め、次年度の琉球大学学士教育プログラムの中で地学系カリキュラムに関する箇所の修正作業をおこなった。	
	0.00		0.00		
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。			<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)						
名 前		浅海竜司	所 属	理学部 物質地球科学科	職 名	准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果	
教育・ 学生支援	0.40	琉球大学理学部物質地球科学科の1年次指導教員を担当する。「地球の科学(共必, 学部1年)」、「海洋地学実習(必, 分担, 学部1年)」、「古環境学(専選, 学部2年)」、「炭酸塩地球科学(専選, 学部3年)」、「海洋地学研究法I・II(必, 学部3年)」、「地史学実習(選, 分担, 学部3年)」、「地球環境学特論I・II(選, 院生)」、「海洋地学セミナーI・II(必, 学部4年)」、「卒業研究I・II(必, 研究室所属学部4年4名, )」を担当し, 学部1年から院生までの各学年層に適した内容の授業を提供する。留年することがないよう, 毎週~隔週で卒業研究の進捗状況を確認, 指導する。		0.40	琉球大学理学部物質地球科学科の1年次指導教員を担当し, 「地球の科学(共必, 学部1年)」、「海洋地学実習(必, 分担, 学部1年)」、「古環境学(専選, 学部2年)」、「炭酸塩地球科学(専選, 学部3年)」、「海洋地学研究法I・II(必, 学部3年)」、「地史学実習(選, 分担, 学部3年)」、「地球環境学特論I・II(選, 院生)」、「海洋地学セミナーI・II(必, 学部4年)」、「卒業研究I・II(必, 研究室所属学部4年4名, )」を担当した。学部4年生5名, 修士2年生1名を指導した。	
研究	0.45	採択された科学研究費補助金「若手A:代表」「挑戦的萌芽:代表」「基盤A:分担」「基盤B:分担」「海外学術基盤B:分担」の研究に従事し, 炭酸塩生物・堆積物に基づいた現代~過去の環境解析研究を実施する。本学理学部および部局外との国際・国内共同研究(20件)を推進し, 第四紀気候変動解析研究を実施する。随時, 成果を査読付ISI国際学術論文, 国内国際学会等で発表する。		0.35	科学研究費補助金「若手A:代表」「挑戦的萌芽:代表」「基盤A:分担」「基盤B:分担」「海外学術基盤B:分担」の研究に従事し, 本学理学部および部局外との国際・国内共同研究(20件)を推進した。成果として, 査読付ISI国際学術論文(4編), 査読付国際誌(1編), 著書一部担当(2件), 国際学会(6件), 国内学会(7件)で発表した。	
社会貢献	0.05	日本地質学会の評議員として, 一般社会・中高生へ地球科学の情報等を発信し, 学会の発展に貢献する。		0.05	日本地質学会の評議員として貢献し, 任期満了となった。	
管理運営	0.10	琉球大学理学部理学部教授会, 理工学研究科(前期)委員会, 理学部物質地球科学科会議に参加し, 管理運営に関わる。学科の各種委員会(予算編成委員会を含めて計4つ)を務める。		0.20	琉球大学理学部理学部教授会, 理工学研究科(前期)委員会, 理学部物質地球科学科会議に参加し, 管理運営に関わる。学科, 学部, 大学内の各種委員会(予算編成委員会を含めて計10)を務める。	
	0.00			0.00		
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう, 記入してください。 ・記入量に応じて, 枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は, 「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。		1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう, 記入してください。	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には, 右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前	瓜生康史		所 属	理学部 物質地球科学科		職 名	教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生支援	0.35	「物理学入門I, II」「プログラミング入門」「計算物理学」「相対論的宇宙物理学入門」(大学院)の講義及び卒業研究指導を行う。学生の理解度を把握しつつ講義を進めるよう注意する。コンピューター関連科目ではTAを採用し実習時の質問にきめ細かく答えながら講義を進める。研究室所属の4年次学生の進路に関する助言等を行う。また、物理系の宇宙科学に関係する進路を希望する学生に対し助言等を行う。		0.35	学部向け講義については毎回講義の補助教材としてプリントを準備し、学期中のレポートや小テストにより学生の理解度の把握につとめた。実習補助のためのTAの活用も計画通り行った。宇宙論についての大学院講義と数値相対論について大学院生指導を行った。卒業研究では前期に一般相対論の輪講を行い、後期に恒星の構造について卒業研究の指導をした。研究室の学生3名に対し進路に関する助言等を行った。		
研究	0.40	科研費基盤研究に関する高密度星計算法の発展的開発を推進し、関連論文を2編投稿することを目標にする。共同研究者との相互訪問を実現し、テレコンファレンスを利用して協力関係の緊密化を図る。また、関連する国際会議や学会において研究発表を行う。		0.40	連星高密度星に関する論文がPRDに掲載され、高速回転する高密度星についての論文がPRDに受理された。さらに、3軸不等の高密度星についての論文をほぼ完成させた。採択された科研費基盤Cの研究費を利用し、計算用ワークステーションを購入した。また、定期的なテレコンファレンスの他に、同研究費で共同研究者を海外より1か月間招聘して共同研究を行った。		
社会貢献	0.05	物理系公開講座の開催に貢献する。昨年度に引き続き、パルサーを解りやすく解説するための教材開発を試みる。		0.05	物理系公開講座の開催に貢献した。教材開発は今後も継続的に進めて行く。		
管理運営	0.20	理学部副学部長として、研究推進委員会に関する業務と法人評価に関わる書作成現況調査票等の作成の補助を行う。また、理学部各種委員会での業務に貢献する。		0.20	理学部副学部長として、研究推進委員会に関する業務と現況調査票作成に貢献した。また、理学部各種委員会での業務を行った。		
	0.00			0.00			
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。</li> <li>・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。</li> <li>・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。</li> </ul>		1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。</li> </ul>		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
		稲岡 毅	所 属	理学部 物質地球科学科	職 名 教授
領域	業務 ウエイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定		業務 ウエイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果
教育・ 学生 支援	0.35	<ul style="list-style-type: none"> <li>・共通教育科目「物理学I・II」、専門教育科目「物理数学I・IV」、大学院教育科目「素励起物理学」(前期課程)、「表面物理学特論」(後期課程)を担当する。</li> <li>・研究室では、学部4年次生、前期課程学生の研究指導を行う。</li> <li>・研究室の指導教員として、就職、大学院進学などについて学生の相談に応じ、学生の進路模索を支援する。</li> </ul>		0.35	<ul style="list-style-type: none"> <li>・共通教育科目「物理学I・II」、専門教育科目「物理数学I・IV」、大学院教育科目「素励起物理学」(前期課程)の授業を行った。学部の各科目で小テストを2回行い、学生の自己学習を促した。発達障害のある受講生への配慮を行った。</li> <li>・研究室では、4年次生の研究指導を行った。また、主指導教員として前期課程1名、副指導教員として前期課程2名の研究指導を行った。</li> <li>・研究室の指導教員として、学生の就職活動に気を配り、就職を支援した。</li> </ul>
研究	0.30	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国際誌に学術論文を投稿する。</li> <li>・所属する学会、研究会で研究発表を行う。</li> <li>・科研費の申請を行う。</li> <li>・他大学の研究者と共同研究を行う。</li> </ul>		0.27	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国際誌に学術論文が2編掲載された(第1著者1編、第3著者1編)。国際誌に投稿する学術論文1編を執筆中(第1著者)。研究時間の制約のため、執筆が遅れた。</li> <li>・国内学会で4件(第1発表者2件、第3発表者1件、第7発表者1件)、国際シンポジウムで1件(第5発表者)、研究会で3件(第1発表者1件、第3発表者2件)の研究発表を行った。</li> <li>・先進的な新しい研究課題に取り組むための定式化を行った。</li> <li>・科研費(基盤研究C)の申請を行った。</li> <li>・他大学の研究者との共同研究のための議論を行った。</li> </ul>
社会 貢献	0.05	学部授業科目「物理学I・II」、「物理数学I・IV」を、公開授業として社会人および高校生に公開する。		0.03	・学部授業科目4科目を公開授業として社会人および高校生に公開した。今年度は受講者がいなかった。
管理 運営	0.30	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外部認証評価担当の副学部長として、昨年度に受審した外部評価の結果を周知し、施策を講じるための準備を行う。自己評価と関連して、学部自己評価委員会の副委員長、全学の大学評価センター評価企画員、社会連携に関する自己点検・評価委員会委員を務める。自己評価委員長と協力して、法人評価のための現況調査票の作成(共同)と取りまとめを行う。また、年俸制の導入等に関する検討委員会業績評価作業部会委員を務める。</li> <li>・所属系の入試検討委員を務める。募集要項の点検、入試方法の検討などを行う。</li> </ul>		0.35	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外部認証評価担当の副学部長として、昨年度に受審した外部評価の結果を教授会で周知し、施策を講じるための準備を行った。自己評価と関連して、学部自己評価委員会の副委員長、全学の大学評価センター評価企画員、社会連携に関する自己点検・評価委員会委員を務めた。法人評価受審のための現況調査票の教育部分の作成(共同)と取りまとめを行った。全学の現況調査表(教育)作成担当者WGにて、全学レベルでの調整、打ち合わせを行った。また年度末までに、達成状況報告書(研究)の点検、手直しを行う予定。</li> <li>・年俸制の導入等に関する検討委員会業績評価作業部会委員を務め、年俸制導入の準備に携わった。</li> <li>・所属系の入試検討委員を務め、募集要項の点検、入試方法の検討などを行った。</li> </ul>
	0.00			0.00	
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウエイト比が1.00となるよう、記入してください。</li> <li>・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。</li> <li>・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。</li> </ul>		1.00	・ウエイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		梯 祥郎	所 属		理学部 物質地球科学科物理系	職 名		教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生 支援	0.40	物理学I, 物理学II, 物理数学II, 物理数学III, および物性論の講義をと おして学生の基礎学力向上に努める。 大学院(修士・博士)の講義(固体量子論)並びに研究指導を行い, 学生の博士論文作成を指導する。 研究室所属学生の学生生活・就職・進学に対して適切な助言・指導 を行う。			0.40	物理学I, 物理学II, 物理数学II, および物性論の講義をとおして学生の 基礎学力向上に努めた。また, 大学院(修士・博士)の講義(固体量子論) 並びに研究指導を行い, 学生の博士論文作成を指導した。 研究室所属学生の学生生活・就職・進学に対して適切な助言・指導を 行うと共に, 学生の就職について推薦書を出した。		
研究	0.40	長距離非局所動的CPA理論を定式化し, モデル計算によって有限温 度における非局所電子相関の役割を明らかにする。第1原理運動量 依存電子相関変分理論を大学院生と共に発展させる。			0.50	第1原理運動量依存電子相関変分理論を大学院生と共に発展させ, 関連する原著論文3編を出版できた。		
社会 貢献	0.10	教員免許状更新講習講師として, 講習を行う。 その他, 学内外からの要請があれば, 随時前向きに対応する。			0.05	教員免許状更新講習講師として貢献する予定であったが, 今年度受講 者数が4名に満たなかったため, 次年度行うことになった。出身中学の 50周年誌に文章を寄稿した。		
管理 運営	0.10	留学生特別プログラム委員会などの委員として学部の運営に貢献す る。			0.05	留学生特別プログラム委員会委員として学部の運営に貢献した。		
	0.00				0.00			
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう, 記入してください。 ・記入量に応じて, 枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は, 「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定して ください。			1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう, 記入してください。		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には, 右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。			



(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前		眞榮平 孝裕	所 属		理学部 物質地球科学科
職 名				教授	
領域	業務 ウエイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定		業務 ウエイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果
教育・ 学生支援	0.35	学部学生に対しては、相対論と統計力学特論の講義と卒業研究Iのセミナー指導を行う。また、大学院学生に対しては、物性学特論の講義と特別演習、特別研究の指導を行う。相対論についてはノートパッドを導入し、学生の理解度を把握しながら視覚的に授業を進めていく。 物性学特論については、物性物理学の基礎的な事項から出発して、研究の最前線で行われているテーマについても講義する。 卒業研究生、大学院生を指導する。 講義時間以外についても、学生からの質問があれば積極的に指導する。		0.25	学部学生に対しては、相対論、統計力学特論、統計力学、解析力学、力学など必修科目3講義と卒業研究のセミナー指導を行った。力学については口頭試問を実施し、学生の理解度の把握に努め、授業に活かした。また、大学院学生に対しては、物性学特論の講義と特別演習、特別研究の指導を行った。物性学特論については、物性物理学の基礎的な事項から出発して、研究の最前線で行われているテーマについても講義を行った。卒業研究生、大学院生を指導した。講義時間以外にも、学生からの質問があり指導した。 発達障害学生に対する支援経費85万円を獲得し当該学生に対する合理的配慮を実施した。また、指導スキル向上のために平成27年度沖縄県カウンセリング夏季研修会に参加し、過程を修了した。
研究	0.40	科研費基盤研究(C)「強相関化合物におけるf電子の局在・非局在転移近傍の一粒子描像に関する研究」研究の遂行のため解析を進める。 関連論文を国際紙に投稿することを目標にする。 関連する国際会議や所属する学会で研究発表を行う。 他大学あるいは他研究所と国内的共同研究を行う。		0.30	科研費基盤研究(C)「強相関化合物におけるf電子の局在・非局在転移近傍の一粒子描像に関する研究」研究の遂行のため解析を進めた。 関連論文を国際紙に投稿した。 関連学会にて研究発表を行った。 他大学あるいは他研究所と共同研究を進めた。
社会 貢献	0.15	琉球大学公開講座へ貢献する。霧箱を製作し、「霧箱で素粒子を見る」というタイトルで講演、演示実験を行い物理の魅力を紹介を行う。 県内の小中高校および公的機関に出前授業を行う。 沖縄県商工会連合会との連携を進め、合同会議や講演などに参加する。 県内企業を中心とした産官学連携を進める。		0.10	公開講座を行い中高校生を中心とした地域社会への物理の魅力を伝えた。オープンキャンパスにて研究室紹介を行い、研究内容の説明を高校生に行った。幼稚園・小学校や公共施設に出向き、物理実験による科学教育を行った。科学の祭典、青少年科学作品展、県主催の科学教育人材育成事業に参画した。 産学官連携として、ワールドリンク株式会社との連携事業を実施し理学部化学系・生物系の教員とのコーディネートを進めた。
管理 運営	0.10	物理系主任として系の運営に関して滞りなく進むよう各種委員と連携しながら行う。系内システム委員として、メールサーバー、計算機サーバーの管理運営を行う。		0.35	物理系主任として系の運営に関して滞りなく進むよう各種委員と連携して進めた。産学官連携推進機構併任教員として、沖縄版ゼロエネルギービル・ハウスに関する研修会を沖縄県では初めて実施し県内外のハウスメーカー18社32名の参加を得た。次年度、経済産業省や商工会連合会への支援金申請の足がかりを作った。物理系内システム委員長として、メールサーバー、計算機サーバーの管理運営を行った。
	0.00			0.00	
計	1.00	・ウエイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。		1.00	・ウエイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)									
名 前		安田千寿		所 属	理学部 物質地球科学科 物理系		職 名	准教授	
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果			
教育・ 学生 支援	0.35	<ul style="list-style-type: none"> <li>・担当講義のシラバスを受講者へ周知する。</li> <li>・学生の修得度の現状把握に努めながら講義を進める。</li> <li>・新生が大学生活に馴染むよう支援する。</li> <li>・学生が自学自習できる環境を整える。</li> <li>・担当する大学院生の学会発表等を支援する。</li> <li>・担当する卒研究生・大学院生の就職や大学院進学に関する指導を行う。</li> </ul>			0.43	<ul style="list-style-type: none"> <li>・担当する科目のシラバスや自己評価チェックシート等を作成配布した。</li> <li>・初年次科目において、アンケートや基礎力テストを行い、高校における物理や微分積分の修得状況等を知り、授業の進め方を決めた。</li> <li>・新生を対象に基礎ゼミを実施し、大学生活が軌道に乗るよう支援した。</li> <li>・大学院生控え室の研究環境を整備した。</li> <li>・担当する大学院生のプログラム講習会への出張参加を支援した。</li> <li>・担当する卒研究生の大学院進学や就職に関する指導を行った。</li> <li>・担当する大学院生の進学や就職に関する指導を行った。</li> <li>・FDとなる説明会に参加した。</li> </ul>			
研究	0.35	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究に必要なコンピューター計算資源を獲得する。</li> <li>・論文を作成、投稿する。</li> <li>・研究成果を学会等で発表する。</li> <li>・科研費の研究課題を推進する。</li> <li>・学内や他大学等との共同研究を推進する。</li> </ul>			0.30	<ul style="list-style-type: none"> <li>・東京大学物性研究所スーパーコンピューターシステムの共同利用申請を行い、プロジェクトが採択された。</li> <li>・論文を出版した。</li> <li>・日本物理学会や研究会で研究成果を発表した。</li> <li>・科研費の共同研究者と連絡を取りあい、担当する部分の研究を推進した。</li> <li>・学内や他大学の研究者との共同研究を推進した。</li> </ul>			
社会 貢献	0.05	<ul style="list-style-type: none"> <li>・担当する授業を一般市民や高校生に公開する。</li> <li>・学外共同利用施設の運営に協力する。</li> </ul>			0.02	<ul style="list-style-type: none"> <li>・担当する科目「物理学入門I」と「物理学入門II」を一般市民や高校生に公開し、のべ10名の一般市民に授業を公開した。</li> <li>・学外共同利用施設の運営に協力した。</li> </ul>			
管理 運営	0.25	<ul style="list-style-type: none"> <li>・理学部紀要編集委員として、紀要に関する業務に従事する。</li> <li>・非常勤講師室の世話人として、必要な環境を整える。</li> <li>・琉球大学営利企業役員等兼業審査委員として、業務に従事する。</li> <li>・全学学士教育プログラム委員として、業務に従事する。</li> <li>・大学入試や大学院入試に関するデータを収集する。</li> <li>・その他の委員会委員の業務に従事する。</li> </ul>			0.25	<ul style="list-style-type: none"> <li>・理学部紀要委員として、業務に従事した。</li> <li>・非常勤講師室の世話人として、業務に従事した。</li> <li>・琉球大学営利企業役員等兼業審査委員として、業務に従事した。</li> <li>・全学学士教育プログラム委員として、業務に従事した。</li> <li>・入試に関連するデータを収集した。</li> <li>・その他の学内委員の業務に従事した。</li> </ul>			
	0.00				0.00				
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。</li> <li>・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。</li> <li>・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。</li> </ul>			1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。</li> </ul>			
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		前野昌弘	所 属		理学部 物質地球科学科	職 名		准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果			
教育・ 学生支援	0.40	<ul style="list-style-type: none"> <li>・タブレットPCを用いた物理シミュレーション教材のコンテンツを整備するとともに、Webを利用して講義録、教材提供などを行う。</li> <li>・高校教員などと連携も図りつつ、「教職実践演習」の授業内容を充実させる。</li> <li>・大学院生、卒業研究生の進路について、相談に乗る。</li> </ul>		0.40	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「自然科学のための数学」と「熱力学」においてはコンピュータプログラムを多数作成し、Webにて教材提供を行った。</li> <li>・「教職実践演習」では学生に主催させた公開講座が多数の入場者を集めて成功した。</li> <li>・大学院志望の卒研究生については進学先についての相談を受けた。</li> </ul>			
研究	0.35	<ul style="list-style-type: none"> <li>・超弦理論または量子重力などの分野の研究を行い、専門誌に論文を投稿する。</li> </ul>		0.30	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究会で弦の場の理論の量子化についての発表を行った。論文にまとめるために作業中である。</li> </ul>			
社会貢献	0.15	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「青少年のための科学の祭典・沖縄大会」の実行委員長、物理系の公開講座の実行委員を務める。</li> <li>・球陽高校SSH運営指導委員を務める。</li> <li>・高校の物理教員との連携事業を進める。</li> <li>・小学校などの初等教育への出前授業等も積極的に展開していく。</li> </ul>		0.20	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出前授業は高校2校、小中学校8校に向けて行った。</li> <li>・科学の祭典、青少年科学作品展などのイベントに参加した。</li> <li>・公開講座は二つ実施した。</li> <li>・スーパーサイエンスハイスクール生徒研究発表会、沖縄電力科学作品展において審査員を務めた。</li> </ul>			
管理運営	0.10	<ul style="list-style-type: none"> <li>・物理系の広報委員として、物理系ホームページを管理する。</li> <li>・高等学校への広報活動を行う。</li> </ul>		0.10	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームページの管理を行った。</li> <li>・オープンキャンパスで広報活動を行った。</li> </ul>			
	0.00							
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。</li> <li>・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。</li> <li>・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。</li> </ul>		1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。</li> </ul>			
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。				

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		小田 一郎	所 属		理学部 物質地球科学科	職 名		教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生支援	0.40	「初等量子力学」「量子力学」「量子力学特論」では、学生たちが量子力学の重要な事項を理解できるように、わかりやすい授業を行う。「情報科学演習」では、すべての学生が「情報リテラシー」の基礎的な能力がつくように、毎回オリジナルなプリントを用意して授業を行う。卒業研究学生4名、修士課程の学生1名を指導する。			0.40	計画通り実行できたので、評価できる。		
研究	0.40	この期間中に、素粒子物理学に関する論文を3本以上専門雑誌に出版することを目指す。			0.40	海外専門雑誌に3本の論文が掲載された。		
社会貢献	0.10	学部や学科の広報委員として、オープンキャンパス等の活動に参加したい。			0.10	理学部の広報委員長として、オープンキャンパス等の活動に参加した。また、理学部HPのオープンキャンパスのパートを自分で作り、情報や写真等をアップロードした。		
管理運営	0.10	理学部の広報委員、将来計画委員に選ばれているので、管理運営に寄与したい。			0.10	委員会にはほとんど出席し、活動も行ったので評価できる。		
	0.00				0.00			
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。</li> <li>・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。</li> <li>・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。</li> </ul>			1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。</li> </ul>		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)								
名 前		仲間隆男	所 属		理学部 物質地球科学科	職 名		教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果			
教育・ 学生 支援	0.40	共通教育科目「人間と物理学」担当および「核の科学」世話人。 専門科目「物理実験学」、「エレクトロニクス入門」(前期) 「物理実験II」、「物理実験IV」(後期)担当。 教育補助としてTAを活用する。 物理実験II, 物理実験 IV 卒業研究: 卒研究生(3人)の指導 大学院前期課程学生(7人)および後期課程(1人)の指導 大学院前期科目: 物質地球科学特別研究・物質地球科学特別演習など		0.40	共通教育科目「人間と物理学」を担当。「核の科学」の世話人。 専門科目「物理実験学」、「エレクトロニクス入門」、「物理実験II」、「物理実験IV」の担当。実験補助でTA6名。 卒業研究: 卒研究生(3人)の指導を行った。 大学院前期課程学生(7人)および後期課程(1人)の指導 大学院前期科目: 物質地球科学特別研究・物質地球科学特別演習などを担当。			
研究	0.30	学会への参加 国内および国際学会への参加 論文発表 論文および紀要の投稿 外部および学内資金の獲得を目指す 共同研究を行う		0.30	日本物理学会, その他研究会での研究発表13件。 国際会議発表2件。 論文11編。 東京大学物性研究所との共同研究を行った。			
社会 貢献	0.10	オープンキャンパス, 理学部体験ツアーへの参加 公開講座開催		0.10	オープンキャンパス, 理学部体験ツアーに参加した。			
管理 運営	0.20	系内委員: TA担当委員, 学部委員: 予算編成検討部会, 施設整備委員, 「職業と人生」世話人 極低温センター長, ハラスメント等人権侵害相談窓口		0.20	系内委員: TA担当委員, 学部委員: 予算編成検討部会, 施設整備委員, 「職業と人生」世話人 極低温センター長, ハラスメント等人権侵害相談窓口			
	0.00			0.00				
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。		1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。			
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		深水 孝則	所 属	理学部 物質地球科学科	職 名	教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果	
教育・ 学生支援	0.40	共通教育科目の「物理学I、II」、学部専門科目の「物理実験Ⅲ、Ⅳ」、「物理学基礎実験」、大学院教育科目の「誘電体論」の講義を担当する。「物理学I、II」の講義は、適宜小テストなどを行い学生の理解度を確認しながら授業を進める。研究室に配属された卒業研究生6名の卒業研究の指導を行う。また、研究室に所属している卒業研究生の進路や就職先についてサポートを行う。		0.40	学部の共通教育と専門の講義及び大学院の講義を担当した。また、物理学I、IIの講義で小テストを実施し教育的効果を上げた。卒業研究生3名の研究指導を行った。	
研究	0.35	国際的な学会誌への論文の投稿を行うことを目標として、研究を推進する。		0.35	今年度は国際誌に3編の論文が掲載された。	
社会貢献	0.10	他大学の非常勤講師として、専門性を生かした教育支援を行って学部学生のコンピュータ技術の向上を図る。教員免許更新のための講義を行う。		0.10	他大学で情報関係の講義を行い、学生のコンピュータ技術の向上を図った。今年度、受講者がいなかったため教員免許更新の講義は開かなかった。また、社会貢献に関する依頼がなかったため、その他の社会的貢献は行わなかった。	
管理運営	0.10	2年次指導教員、学部予算編成検討部会委員、教員免許状更新講習実施委員として管理運営に参加する。		0.10	2年次指導教員、施設整備委員会、予算編成検討部会、全学の教員免許状更新講習実施委員、シンクロトン光大学間連携会議委員会として積極的に活動を行った。	
進路指導	0.05	研究室に所属している卒業研究生の進路や就職先についてサポートを行う。		0.05	研究室の卒業研究生の就職に関してサポートを行った。	
計	1.00			1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前		阿曾 尚文	所 属		理学部 物質地球科学科
			職 名		准教授
領域	業務 ウエイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定		業務 ウエイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果
教育・ 学生支援	0.40	<p>「物理学入門I・II」「物理実験III・IV」「物理学基礎実験」では、学生たちが物理学の基本的な事項を理解できるように、図表や絵を使って、わかりやすい授業を行う。また全ての科目とも授業アンケートを実施し、教育効果を検証する。</p> <p>研究室に修士2年1名、学部4年生が4名いるので、彼らの進路決定のサポートができるように個別面談・指導等を行いたい。</p>		0.40	<p>下記により十分に活動できた。1、「物理学入門I・III」では、図表や絵を使ってわかりやすい授業が出来たと考える。2、「物理実験III」「物理学基礎実験」では、実験テキストの電子化・更新を今年も大いに進め、より解りやすい実験内容となった。3、「物理実験IV」は実験系研究室での有意義な授業となった。4、研究室の大学院修士2名、卒業研究学生4名は、当初の計画通りの研究を行った。5、修士2年1名、卒研究生4名のうち、4名は公務員、民間企業に進路が決定した。</p>
研究	0.40	<p>今年度は基盤研究Cを継続するので、研究室のいっそうの発展に全力をつくす。特に極低温センターの希釈冷凍機による研究を重点的に行う。この期間中に、磁性と超伝導に関する論文を1本以上専門雑誌に出版することを目指す。なお、学外活動として、国内他機関での共同利用研究、米国での中性子散乱研究を行い、物理学会での発表を予定している。</p>		0.35	<p>下記より十分に活動できた。1、科学研究費(新学術及び基盤C)が継続して採択され、研究活動を大いに進めた。2、東京大学物性研究所の共同利用研究のため、合計2週間程度出張した。4、米国オークリッジ研究所にて中性子散乱による研究を行った。5、物理学会等で数件に発表を行った。但し、専門誌での論文出版は至っていない。</p>
社会貢献	0.05	<p>2015年8月に、高校生、高校教員が主に受講対象者となる物理系の公開講座で模擬実験をする予定である。</p>		0.05	<p>2015年8月に、物理系の公開講座「最先端物理学の世界「時空と光」」で模擬実験を行い、好評であった。</p>
管理運営	0.15	<p>物理系内の入試検討委員会委員、学部の自己評価委員会委員、極低温センターの保安員に任命されている。これらの委員としても大学管理運営に寄与したい。</p>		0.20	<p>1、理学部の自己評価委員会委員として、「現況調査票」関わる書類作成の活動を行った。2、物理系内の入試検討委員会委員」として適切に活動した。3、極低温センターの保安員、運営委員として適切に活動した。</p>
	0.00			0.00	
計	1.00	<p>・ウエイト比が1.00となるよう、記入してください。          ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。          ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。</p>		1.00	<p>・ウエイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。</p>
<p>※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。</p>				<p><input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。      <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。</p>	

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前		柳澤 将	所 属		理学部 物質地球科学科
			職 名		准教授
領域	業務 ウエイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定		業務 ウエイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果
教育	0.30	物理系の専門講義で、学生に事前の予習を行なわせ講義に臨ませること(反転授業)を行なう。学習進度・学力も考慮し、適度な量の予習教材の準備と、講義内でのフォローを行なう。今年度から中心的に担当する物理学基礎演習IIでも、反転授業をこころみる。		0.30	物理系の専門講義では予習教材提供により、前もって予習させるよう進めた。講義の学生の感想を見てもまずまず成果が得られたと思う。新たに中心的に担当した物理学基礎演習IIでも、毎回質問・コメントを提出させ、それを参考に理解度を高めるのに利用できた。これまで副担当の立場で毎年見てきた同演習よりも、学生に解答・説明させる頻度を増やす事ができた。
研究	0.35	昨年度から継続の若手研究B(代表)と新学術領域(分担)の科研費をもとに他の研究グループとの共同研究も進め、昨年度より高品位な論文誌への論文掲載を目指す。研究グループの大学院生にも、論文投稿につながるよう研究指導を進める。		0.30	国際誌への論文掲載数は最低限の本数(5報)と言えるが、実験家との共同研究の成果もあり、幅広い研究テーマ・分野の成果になったと思う。指導学生の成果の論文を国際誌掲載のために現在まとめ中で、年度内に投稿できそうである。実験家との共同研究でインパクトの高い成果を、年度内に掲載に持ち込めそうである。
社会貢献	0.10	年に2回以上、学会、会議参加・発表をするとともに、国際論文誌の査読依頼も積極的に引き受け、研究分野の活性化に貢献する。理学部ツアーをはじめとする一般向けの施設開放や講演などにも協力する。		0.15	国内・国際学会で、自身や、指導する学生の口頭発表など複数件の研究発表を行なった。研究分担をする新学術領域の関係で、様々な大学・研究機関の大学院生・博士研究員向けに、研究に関する基礎講義を行なった。沖縄科学技術大学院大学(OIST)でも、研究に関する招待講演を行なった。
管理運営	0.15	理学部や物理系での委員の仕事を効率的にこなし、系会議でも発言・提案をし、系の運営に協力する。		0.15	今年度から学部学生支援委員会と、全学学生生活委員会の委員の任務が加わった。前者では就職セミナー運営・学部ニュース誌作成に貢献し、後者では学生寮・大学祭見回りで学生指導、学生生活アンケートの作成・解析を行い、学生の引き起こした問題に関する討議にも参加・貢献した。
進路指導	0.10	指導教員として、学生個人の学習や進路の相談相手を務めるのに加え、上の学年の指導教員とも連絡をとり、就職など進路について学生により有益な情報を与えられるよう努める。1・3研修でも実行に協力し、学生との交流を深める。		0.10	一部の学生の学習・進路に関する相談を引き受け、また物理系3年次学生の研究室配属に関する説明や希望調査、就職志望の学生に向けての情報発信を行なった。
	0.00			0.00	
計	1.00	・ウエイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。		1.00	・ウエイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。	



(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前		田原 周太	所 属		理学部 物質地球科学科
			職 名		助教
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果
教育・ 学生 支援	0.35	物理学実験で工学部(前期)及び医学部(後期)の1年生への実験指導を行う。物理系2年生対象の解析力学演習で演習指導を行う。また、大学院生を対象とした講義「構造不規則系の物性論」を開講する。研究室に所属する4年次生及び大学院生の指導として研究室ゼミや卒論指導などを行う。		0.35	予定通り、物理学実験、解析力学演習、大学院講義の授業活動を行った。研究室に所属する4年次生及び大学院生の研究指導も行った。
研究	0.45	研究対象とする物質に対して高エネルギー量子ビームを用いた散乱実験、分子動力学シミュレーションを実行し、物質構造やイオン拡散等の研究を行う。学内実験室における実験も同時に行っていく。外部資金獲得のため、科研費等の助成申請を積極的に行う。		0.45	量子ビーム散乱実験と分子動力学シミュレーションにより、熔融塩の構造に関する研究を行った。第一著者として学術論文を3報発表した。外部資金獲得のための助成申請を積極的に行った。
社会 貢献	0.05	物理系が主催する公開講座に参加し、中高生を対象とした演示実験を行う。		0.05	公開講座に参加し、実験とシミュレーションに関する演示を行った。
管理 運営	0.15	系会議へ参加し、学科系の運営に関わっていく。研究科委員会(前期)にも参加する。4年次指導教員として、4年次生に関わる仕事をこなす。理学部エコ推進委員会委員として活動を行う。物理系懇親会幹事・カリキュラム検討委員として活動する。		0.15	系会議や前期研究科委員会、エコ推進委員会、物理系親睦会幹事、カリキュラム検討委員などの運営活動に参加した。4年次指導教員として、物理系4年次生の支援活動を行った。
	0.00			0.00	
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。</li> <li>・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。</li> <li>・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。</li> </ul>		1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		谷口 敬介	所 属		理学部 物質地球科学科	職 名		准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生支援	0.55	「数値解析演習I, II」、「光学」の講義、共通教育科目「時間と空間」の講義、および卒業研究指導を行う。コンピュータを使用する数値解析演習では、学生に対してマンツーマン指導を行うなど、学力向上に努める。講義では、小テストをしたりアンケートを取ったりして学生の理解度を確認しながら、授業を進めていく。大学院進学を目指す卒研生に対し助言を行う。			0.55	就任1年目だったので、授業準備(講義ノート、プリント、スライド、小テスト問題、レポート課題等の作成)をしっかりと行った。また数値解析演習では、進度の遅い学生に重点的に声をかけ、個別指導を行った。卒業研究指導では週に一度のゼミだけではなく、日常的に質問を受け付け、また、外部の大学院進学予定の卒研生には、進学先の研究室についての情報を知らせるなど、助言を行った。		
研究	0.40	科研費基盤研究(C)「コンパクト連星の相対論的準平衡解に関する数値的研究」を推進し、関連論文を査読付き国際誌に投稿することを目指す。関連する学会等で研究成果を発表する。国内外の研究者と連携を図り、共同研究を行う。			0.30	今年度4月以降、新たな論文の投稿はなかったが、その直前に査読付き国際誌に投稿した3本の共著論文について、その改訂に携わるなど、掲載決定と出版に寄与した。		
社会貢献	0.05	8月に行われる琉球大学公開講座に、講師として貢献する。国際誌の査読者として貢献を行う。			0.05	8月に行われた琉球大学公開講座に講師として参加した。また、4月以降は国際誌の査読を1本行った。		
管理運営	0.00	新任教員であるため今年度は免除されているが、依頼があれば引き受ける。			0.10	琉球大学国際沖縄研究所運営委員会委員に就任し、運営に携わった。		
	0.00				0.00			
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。			1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)								
名 前		小林 理気	所 属		理学部 物質地球科学科	職 名		助教
領域	業務 ウエイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定		業務 ウエイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果			
教育・ 学生支援	0.35	学部学生に対しては、物理学実験と電磁気学演習I, 卒業研究Iのセミナー指導を行う。また、大学院学生に対しては、磁性体物理学の講義と、特別研究の指導を行う。物理学実験については実験グループごとに詳しい実験の説明を行い、学生の理解度を把握しながら進めていく。また電磁気学演習ではグループで問題を解かすことで、コミュニケーション能力も養ってもらおうと同時に、前に出て解答を発表する経験を通じてプレゼン能力についても養ってもらおう。磁性体物理学については、磁性の基礎的な事項から出発して、最前線の研究論文に掲載されているデータを読み解き、議論することで専門分野を通じた高度なコミュニケーション・スキルを習得してもらおう。講義時間以外についても、学生からの質問があれば積極的に指導する。		0.40	物理学実験と電磁気学演習I,II, 卒業研究Iのセミナーについてはおおむね目標通りの指導が行えたと考えている。しかし、電磁気学演習I,IIではテストの結果が予想より悪く、今後指導方法の改善を行う必要があるだろう。磁性体物理学については、学生同士が活発に議論を行えるような環境を作ろうとしたが、結果として私が一方的に話す形の講義になってしまった。もう少し教材の準備に時間をかける必要があったと感じている。講義時間以外にも質問を受け付けるとのアナウンスを周知した結果、週に1-2回は学生が質問に来るようになった。この活動も今後も積極的に進めていく予定である。			
研究	0.40	現在までに得られたデータを解析し、なるべくインパクトファクターの高い学術誌に投稿することを目標にする。低温センターにある希釈冷凍機やマグネットの整備を行い、極低温環境下での実験が行える環境を構築する。新奇物質の探索を行う。関連する国際会議や所属する学会で研究発表を行う。他大学あるいは他研究所と国内的共同研究を行う。		0.40	データの解析が完了し、現在論文を執筆している。希釈冷凍機の整備については概ね完了し、3月以降のテスト実験に向けて準備を進めている。新奇物性の探索については、物性が何も明らかになっていないRh <sub>2</sub> Al <sub>9</sub> という化合物の純良単結晶の育成に成功した。日本物理学会にて2件発表を行った(2件の内1件は3月発表予定)。東京大学物性研究所と沖縄科学技術大学院大学と共同研究を開始した。			
社会 貢献	0.15	琉球大学公開講座へ貢献する。特に参加予定の演示実験から物理の魅力を広く世間に紹介する。		0.10	公開講座で演示実験を行った。また、オープンキャンパスにて高校生向けに講義を行った。			
管理 運営	0.10	談話会世話人と親睦会の幹事を担当する。談話会では設定及び告知をスムーズに行い、より多くの参加者が集まるよう尽力する。親睦会では先生方がよりスムーズに親睦が深められるよう配慮したセッティングを行う。		0.10	談話会と親睦会の幹事を担当した。また機器分析センター役員も担当した。			
	0.00			0.00				
計	1.00	・ウエイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。		1.00	・ウエイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。			
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。		